

鷹巣海岸の海産動物について

中羽中 一年 福 山 直 邦

二年 橋 出 浩 一

採 集 地 鷹 巣 海 岸

採 集 月 日 7 月 2 9 日 ~ 3 0 日

1. 目 的

福井市科学博物館では、夏に海産動物採集会を行なっている。今年は21回目で、ぼくたちはこれに参加した。毎年、元 横浜大学の酒井恒先生にご指導を受けているようだ。何も知らないぼくたちに、大変おもしろい話しや観察のやり方、採集品の名前をおしえてくださった。この2日間の採集や観察した結果についてまとめてみた。

採集地は、図1のように福井市鷹巣町松蔭(かげ)で、通称ガメ島の前の浜であった。主に磯の小海産動物を、もぐったり岩をくだいたりして採集した。ぼくたちは採集するとき海そうの中に住むもの、岩と岩の間にいるもの、岩の裏や下にいるもの、その他オオヘビガイの貝の中や、コケムシの中に寄生しているものなどに分けながら観察した。それを表にまとめてみた。また、カニの種類と、カニの住み分けにも注意して採集した。これらの結果をまとめてみた。

2. 結果のまとめ

海岸は、図2のように、遊歩道があるくらいだから、岩壁から海をながめた風景は、美しく、だから、水はととてもすんでいる。去年の坂尻とはまるっきりちがっているのも、おもしろいものがとれると先輩がいった。透明度もよく、しかし、海へは行ってちよっといくと急に深くなっているし、岩が多いせいか潮の流れの速いところがあるので、採集には限界があった。

海草については、ツノマタ、ホンダワラなどは、他の海岸のものと同く比べて少し硬いような気がした。

生物では、去年の坂尻と比べて、モガニ、ゴカイ、ホヤやイトマキヒトデなど余りいなかった。一方、フナムシ、タマキビ、イボニシ、オオヘビガイ、レイシ、ガンセキフサゴカイなどが多かった。少し遠くへ行って見るとウニも多かったように見えた。

海底のようすは、ドロや石が余りなく、岩が多くて、その岩にセルクラなどがたくさんついているのに気がついた。

ぼくらが行った日の夜、みんなで海岸線を歩いたが、大潮で岩場が見えだしてきたのでタイドプールができていた。

カニについては、アカデガニはひるはでてこないが、夜などは懐中電灯をもってさがしまわると、百匹近くつかまえることができた。また、丸石の海岸にカニが多くいた。とくにイワガニ、イソガニなど。しかし、ヒメヒライソガニ、ヒライソガニなどがいなかったのは残念である。先輩の意見も聞いて図3のように表わした。

同じカニでありながら陸産のアカダガニも海辺に多いので、アカダガニは海の水と、川の水が、流れが混じり合う所にもいるし、畑のよこを流れるみぞにも多くいた。

大ていのカニは、岩のすきまなどを歩いているのに、ガザミは泳ぐ足をもって、ほとんど底の方の岩と岩の間を、はやい速度で泳ぎながらわたり、かくれるときは、底の方の岩のすきまや、岩の下にもぐりこんでいた。モガニは、ほとんど他のものに比較して動かず、海そうの中にいるときは、海そうと見わけがつかないほどよくにていた。ベッコウガサガニや、ヒメソバガラガニなどは直径7mm~9mmしかないオオヘビガイのからの中に住んでいてほとんど動かないと思われる。採集のときに、オオヘビガイの空のみをわってみると、その他エビなども出てきた。

採集した種類を表のようにまとめた。

海そうの中

エビ、カニ、モガニ、カニダマシ、シャコ、ワレカラ、ウミミズムシなど、海そうによくにた形をしたもの、色がよくにたものが多く、主に小さい種類のもので、この海岸の海そうは、カタノリ、ソノマタ、ホンダワラなど、短い枝のものが多く、あまりごみがないのでゴカイやヨコエビのようなものが少なかった。

岩と岩の間

一番種類が多くいるのは岩のくぼみや海そうのつけ根や、小さい海そうの生えた岩と岩の間であった。この海岸の岩のすきまにはヨコエビが多く、特に岩の表面にたくさんいた。

岩の裏

海底の岩をひっくり返すと、ウニ、ヒトデ、オオヘビガイ、セルクラ、イソゴロモなどが多い。岩と下の砂の間には、こまかい種類のもので多く、中には巣をつくって住むヨコエビもいた。この部落の人たちは、毎年夏になるとパフンウニを採って越前ウニとしてるので、大きいパフンウニは少なかったが、小さいパフンウニがほとんどで、岩の裏にいた。

その他

オオヘビガイは、岩のうらにいたが、中にはからのものもある。これをわってみると、この中を住み家にして種類が意外と多かったのにおどろいた。あまり多くのヨコエビ、カニ、エビ類が出て、これらのものは珍品が多かったので、ぼくたちは、争って中をわって調べた。また、タマキビは海面より下の岩の間にいるもの、海面上の岩の表面にいるものと二種があって、種類によって、住み分けている例であると思われる。

来年は、種類の住み分けをもっとくわしく調べようと思う。

図 2

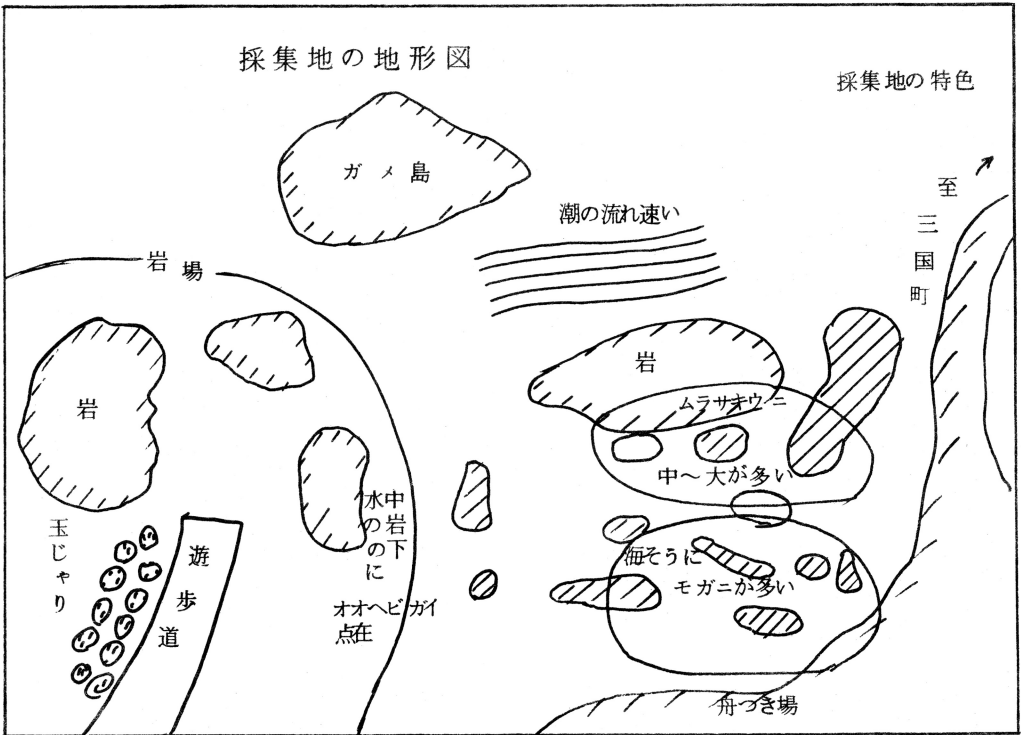
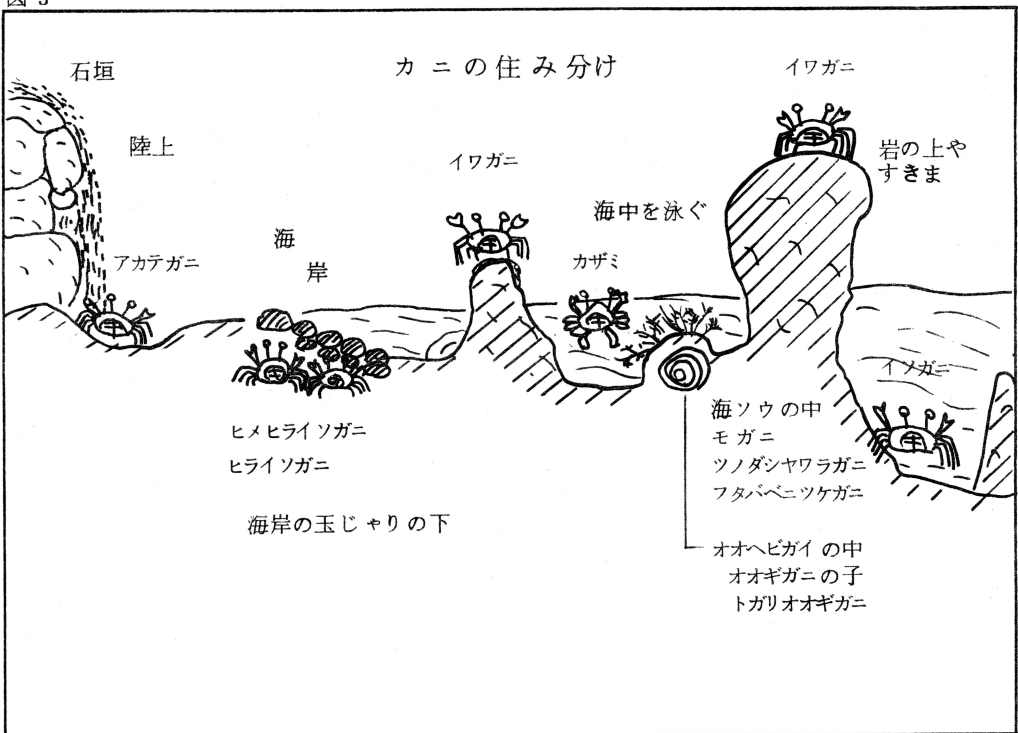


図 3



種 類 名	海 藻 の 中	岩 と 岩 の 間	岩 の 裏	そ の 他
ウミミズムシ	○		○	
ウロコムシ	○			
イワガニ		○		
イソガニ		○		
ウミセミ	○	○	○	割合小さい
ワレカラ	○	○		
ヨコエビ	○	○	○	
ホンヤドカリ		○		貝の中にいる
ヤドカリ		○		貝の中にいる
イボトケガニ	○			
トガリオオギガニ	○			
ヤワラガニ	○			
ツノダシヤワラガニ			○	岩の裏にぴったりつく
ヨツバモガニ	○	○		
イソユメムシ	○			
トラノオガニ	○			
フタバベニツケガニ	○			
フタミゾテッポウエビ			○	
シリス			○	
セルクラ		○	○	岩の面一帯に白くつく
ヒライソガニ				玉じりの下にいる
イソスジエビ				オオヘビガイのからの中にいる
トコヤドカリ ?		○		貝の中にいる
ウミナナフシ	○			
オオギガイ				オオヘビガイ、イシゴロモの中
ベッコウガサガイ	○			
フナムシ				岩の上、陸上にいる
ヒメソバガラガニ			○	イシゴロモの中
オオヘビガイ		○	○	
タマキビ		○		岸の方に多い
コシダカガンガラ		○		岸の方にも多い
ガンセキフサゴカイ		○		
レイシ		○		数が多い
イシモリガイ			○	
フデガイ			○	
ヌノメイトマキ			○	
タモトガイ	○			
ムスヒザラガイ		○	○	多数 海面すれすれにもいる
インダタミ		○		多数
アンテリガイ ?		○		
ヨメガガサ		○		岩の上に海面上でもいる
ムギガイ			○	
バテイラ		○	○	
イボニシ		○		少し深いところは大きい
アラレタマキビ				海面上の岩のわれ目
ハリガネエガイ ?		○	○	

種 類 名	海藻の中	岩と岩の間	岩 の 裏	そ の 他
クモガイ			○	
カニモリガイ		○	○	
カメノテ		○		海面すれすれの岩のわれ目
ムギガイ		○		
ヒトエガイ		○		
イドテア		○		
テツイロインキンチャク			○	小さい
オフエリアゴカイ		○		
トゲクモヒトデ	○	○		比較的多い
クモヒトデ	○	○		
イトマキヒトデ		○	○	海底にもいる
ヒトデ		○		岩の上、海底にいる
ヤツデヒトデ		○		
イトマキヒトデの子			○	
ヒメクモヒトデ	○	○		
ウノアシ			○	
ゴカイ	○	○	○	砂の中にもいる
スゴカイ	○		○	
クマノアシツキ			○	
ウズマキゴカイ	○	○	○	海藻に産卵する。岩の上にいる
アメフラシ				わり合い深くにいる
ウメボシイソギンチャク	○	○		
シロウミウシ				
マナマコ			○	小さかった
ヨロイイソギンチャク			○	
カイメン		○		
ムラサキカイメン		○		岩にへばりつく
イソカイメン		○		
アオウミウシ	○			
ムラサキウニ		○		多数
バフンウニ			○	小さいものが多数
キヌカジカ	○			岩の上にもいる
メジナ				海藻、岩の間を泳ぐ
イソハゼ				岩の上をはうように泳ぐ
トコブシ		○		
ツノナガコブシ		○		
ハゼの子		○		
カジカ				岩の上をはうように泳ぐ
イシゴロモ		○	○	